



創造基礎 B FW 始動！！

1. 創造基礎 B 探究活動開始！

各班の研究テーマが決定した。以下の表にメンバーとテーマを記載する。生徒たちは課題解決のために、長田区役所まちづくり課の職員から紹介を受けた訪問先を中心にフィールドワークを行った。

班	メンバー (太字は班長)	研究テーマ
1	岩田 田中誉 山野 興津 田中千	地場産業の靴を活かし 隠れヲタクグッズを作る
2	大塚 多和 吉田 越智 田結莊	中高生と一緒に 認知症予防
3	大畑 友成 荒木 金岡 西川	長田の銭湯知名度 UP どの世 代でも楽しめる銭湯とは？
4	木下 東田 松井 安藤 小林千	ながた緑プロジェクトを 知ってもらう
5	道本 小出 石村 小林結 宗守	子育て支援
6	篠原 宮川 番匠 伊勢 小山	長田の歴史を知ってもらう
7	辰巳 森脇 今井 嶋崎 藤井	外国の食文化の発信
8	田中 山口 上嶋 神藤 古澤	商店街ウォークラリー

以下に5月中にフィールドワークを行った班の報告を紹介する。

【1班 三浦化学工業】

三浦化学工業所において、創造科学科3期生（1年）の1班5名が「地場産業の靴をいかした隠れヲタクグッズを作ろう」をテーマにして、同代表者の三浦泰一氏と企画担当の中川亜衣氏からお話を伺った。長田のゴム産業からケミカルシューズが生まれた歴史や震災の靴メーカーに与えた深刻な打撃、現在の消費者志向や流通経路などについて話していただいた。また、工場も見学させてもらい、靴の製造工程について詳しく知ることができた。



<生徒感想>

三浦化学工業所さんは昭和38年創立で長田の中でも歴史ある靴工場だ。当初から靴作り一筋であり、それは三浦さんにとって強みでもある。現在従業員は21名。昔は紳士靴も作っていたそうだが、今は婦人靴のみ製作している。販売は主に商社を通して行っており、以前そのルートでスヌーピーとハローキティとのコラボを果たしている。しかし、以前その商社があったため途中で挫折した案件もあった。靴の素材は、最初はゴムから始まった。その後硬くて扱いづらい塩化ビニルの代わりに加工しやすいビニル、合成皮革が登場したことで一気に需要が増えた。今では様々な生地で作ることができる。今回はサンダルの製作過程を見せていただいた。まず型に甲のベルト部分を巻きつけて糊付けし、温めて型の形に布を整える。次に底を糊付けし、機械で上下から押さえてしっかりくっつける。更に踵部分にネジを一本締めて固定し（ブーツの場合は釘を4、5本打つ）、中敷を入れるなどの仕上げ作業をして完成だ。工場には様々な色と大きさの箱が積まれており、それらはそれぞれ出荷先が違うそうだ。震災前は、長田は活気ある職人のまちだった。それが震災によって壊され、それを見た企業が注文を中国や東南アジアの国々に頼むようになってしまった。そのため長

田の靴は注文が減り、人も離れていってしまっている現状を三浦さんは課題であると考えている。三浦さんの希望は、いいものを好きに作って売ることだ。商社抜きで、直売をしたり、海外進出も考えている。震災前と変わらぬ技術力を示し、長田の靴のブランドを取り戻したいという三浦さんの想いを受け止め、これからの活動に活かしていきたい。

【2班 中高生と一緒に認知症予防】

長田区にある「高齢者ケアセンターながた」において「中高生と一緒に認知症予防」をテーマに掲げている創造学科3期生（1年）2班5名が同センターの赤穂博氏にお話を伺った。長田区総務部まちづくり課の原川氏、長岡氏にも同席していただいた。「なあタンカフェ（認知症カフェ）」の開設の経緯や活動内容、今後について丁寧な説明を受け、活発な質疑応答を行うことができた。



〈生徒感想〉

今回のフィールドワークでしたいことや次に聞いておきたいことなどが班の中からもかなりでてきたが、まだまだ具体的に「これを実現するためにこれをこんな風に」とはまだ到達しない。いまは、認知症回復のリハビリ路線と交流会路線が班の中で出ているのでどちらも並行して進めていくうちにメリット・デメリットを考慮したり赤穂さんに色々な提案を聞いてアドバイスしてもらった内容を全て含めた上で班でしていくことを絞っていきたい。

【3班 ゆえ〜ぶ・なぐら】

ゆえ〜ぶ・なぐらにおいて、「長田の銭湯知名度UP」をテーマに研究している創造科学科3期生（1年）3班の4名が、神戸市浴場組合連合会長田支部

支部長の民輪祐一からお話を聞いた。公衆浴場の役割や銭湯の現状と課題について詳しくお話をさせていただいた。



〈生徒感想〉

ゆえ〜ぶ・なぐらにおいてフィールドワークを行いました。神戸市浴場組合連合会長田支部支部長の民輪祐一さんに、銭湯の今、昔についてたくさんのお話を伺うことができました。僕は、まず銭湯の良さを知ってもらい、そこからどうしたら足を運んでもらえるかを考えようと思っていました。話を進めていくと足を運んでもらえるかどうかが一番大切で、一番難しい議題だということがわかりました。これから僕達が考えていくのは答えのないこと、まさに創造科学科にふさわしいと思いました。同時に、1から2にするのは簡単な事だが、0から1にするのは、訳が違うしとても難しいことも教わりました。フィールドワークが終わり、とても大きな課題を課されたような反面、これからの活動によっては長田区の銭湯を少しでも、いや大きく変えられるかもしれないという期待や楽しみがこみ上げてきました。これからの活動も積極的に頑張ろうと思います。

【4班 ながた緑プロジェクトを知ってもらおう】

長田区六間道商店街にあるレンタルスペース r 3 において、創造科学科3期生（1年）4班5名が、長田区まちづくり課協働推進担当の半田氏、坂元氏と r 3 代表の合田昌宏氏から話を伺った。「ながた緑プロジェクトを知ってもらおう」のテーマのもと、行政の方からは、現状の取り組み内容およびその成果と課題を教えていただいた。合田氏からは、地域住民の目線でみる「ながた緑プロジェクト」への感想や、地域の取り組み、商店街の日常の様子などを教えていただいた。今回のFWで得た情報をもとに、高

校生らしい視点を取り入れた提案をしていく予定である。



〈生徒感想〉

私たちの班はr3へフィールドワークに行ってきました。初めてのフィールドワークで緊張していましたが、とても楽しく収穫の多いものでした。私たちはr3の合田さん、長田区役所の半田さんたちにお会いしました。そして、ながた緑プロジェクトをもっと発展させ長田を盛り上げていきたいと考えているとお伝えしました。半田さんには行政としての目線から、合田さんには長田の市民の視点から色々なことを教えて頂きました。今日お話をさせて頂くなかで思ったのは、ながた緑プロジェクトは規模的にも実績的にもとても立派なプロジェクトで既にするなどが固まっているという事です。固まっているということは考えてぬかれてきた証ですが、同時に別の角度から考えてみると、もっと発展させられるという事だと思います。合田さんがおっしゃっていたように、高校生の今だからこそ見える世界やできる事を生かして、頑張っていきたいです。そのためにもまずは、長田を歩いたり色々な人にお話をきいでもっと長田に詳しくなっていきたいです。次回までに今回のお話をふまえて面白い活動をしていけるように、アイデアを持ち寄り考えていきたいです。

【5班 子育て支援】

創造科学科3期生5班5名が長田区役所を訪れ、長田区子ども家庭支援課の山沢ゆち子係長に長田区の子育て支援の現状と施策について説明を受けた。



こちら側からの質問にも丁寧に答えてもらい、今

後の5班の活動に大いに参考になった。

〈生徒感想〉

今日は、フィールドワークで長田区役所の子ども家庭支援課に行きました。そこでは、長田区の子育ての問題について、お話を聞きました。今日の話から長田区の課題がいくつか見えてきました。1つは、長田区には、様々な親子のイベント、活動があるにも関わらずそれが区民に知られていないということです。2つ目は、子育て応援メールの登録者が他区に比べ非常に少ないということです。以上から長田区の大きな課題は活動など様々な事を「伝える」ということだと私達の班は考えました。とても有意義な活動になりました。

【6班 長田の歴史を知ってもらう】

創造科学科3期生6班4名が、神戸史談会の和田幹司氏と共に長田区明泉寺と神鉄丸山駅周辺に調査に行った。実際歩くことによって課題を共有することができた。今回のことを踏まえて次回は長田区にある蓮池付近に調査に行く予定である。

〈生徒感想〉

フィールドワークで歩いている時に長田区は道が細く入り組んでいると思ったがそれは建設社が一斉に建物を建て始めたことが原因だと初めて知った。神戸の災害は阪神淡路大震災が有名だけど昭和17年にも大水害があり、福田さん親子が救助のために犠牲になったということも知った。今回は時間の都合上行けなかった中華儀荘という場所も景色がいいのでマップに載せてもいいかもしれない。歴史ある明泉寺というお寺の住職さんは兵庫高校のOBなので協力して下さるかもしれない。

【8班 商店街ウォークラリー】

創造科学科3期生(1年)8班5名が、新長田



まちづくり株式会社内の神戸長田 TMO 事務局長の宍田正幸氏を訪問した。長田区まちづくり課事業推進担当の西村氏、長岡氏の同席のもと、長田地方の起りや各商店街の特長、取り組みについて教えていただいた。『商店街ウォークラリー』の実施場所の設定やラリー中のしかけなどを考えていくうえで、貴重なご意見をいただき、企画実現に向けて弾みがついた。



<生徒感想>

私たちは商店街の課題や取り組みなどについて話し合い、今後の活動の参考にすることができました。最初はウォークラリーを行えば商店街は賑わうだろう、といった短絡的な考えを持っていましたが、今回のお話を聞いて、ただ人を集めれば良いという訳ではないことに気付きました。イベントを実施して終わり、では意味がありません。ウォークラリー自体を目的とするのではなく、商店街として個々の店舗の魅力を引き出し、伝えるためにどうすれば良いのかを再度検討する必要があると感じました。

【8班 六間道商店街調査】

長田区にある六間道商店街において、「商店街ウォークラリー」をテーマに研究している創造学科3期生（1年）8班5名が、長田区まち育てサポーターの古川氏と共に商店街の現状を知るため商店街の調査を行った。実際に商店街を歩くことによって商店街の現状を知ることができた。後日、このことを踏まえ、班員で話し合い次回の活動の方針を決めていく。

<生徒感想>

私たちは、今日長田のいろいろな商店街を見て回りました。だいたいの商店街はあまり活気がなく、シャッターの閉まっているところがとても多く、商店街自体が暗いところもありました。また、すべての商店街に共通点がありました。それは、どの商店街にもお好み焼きやそば焼き、ぼっかけ屋さんがあるという点です。焼きそばではなく、そば焼きだったという点も新発見でした。事前から長田の商店街はシャッターの閉まっているところが多いと聞いていましたが、実際に見に行くと想像以上に活気がなかったのが驚きました。私たちの研究テーマは、商店街を活気づけるためにウォークラリーを実施することなので、課題はとても大きいと思いました。

私は新長田周辺の商店街へのフィールドワークをして驚いたことが二つあります。一つ目は、六間道商店街が他の商店街と比べて廃れてしまっていることです。二・三週間前の創造基礎Bの授業で、商店街が昔と比べて廃れてしまったということを知ったのですが、予想以上にシャッターばかりでとても驚きました。二つ目は大正筋商店街や本町筋商店街では、人が少ないものの雰囲気は良くて入りやすかったことです。天井やデザインも割と新しく、若者向けのお店と思われるお店も少しあったのですが、残念ながらあまり若者はいませんでした。しかし、これらの商店街にはこれから発展していく可能性は充分あると思います。これらのことから、新長田の商店街は廃れつつあるものの、いいところもあったのでこれを活かしたら若者離れが改善されるかもしれないと思いました。

2. 高校生鉄人化まつり実行委員会 「レインボーハウスへの寄付」

神戸レインボーハウスにおいて、創造科学科2期生（2年）3名が、「第8回長田区高校生鉄人化まつり」の他校の実行委員と



とともに、模擬店の売上金23,900円をあしな

が育英会・神戸レインボーハウスに寄付した。所長の吉田重雄氏からは、レインボーハウスが設立された経緯の説明や施設案内をしていただいた。

外部リンク：[神戸新聞「まつり売上金、レインボーハウスに寄付 神戸の3校」](#)



<生徒感想>

私たちは鉄人化祭りでの利益を神戸レインボーハウスに寄付しにいきました。お祭りのテーマである「長田にかける虹の橋」の虹というキーワードも入っていて、人と人をつなぐという意味にもぴったりのなので寄付先にこの施設を選びました。最初は館長の方から、この施設が阪神淡路大震災で遺児となった子供達のために作られたということや現在、何をしているのかなどという事について話していただきました。施設案内では、図書館や食堂などの他にも、円上に作られ、優しさを感じる部屋も多く、間接照明の明かりがとても暖かく部屋を照らしていて、この場所が傷ついた子供たちのために作られたものだということを実感しました。それだけではなく、火山の部屋という怒りを発散させる場所やおしゃべりの部屋というたくさんの人形がありとてもリラックスできる、他の施設にはない独特な部屋もありました。どの部屋も角は保護されていたりして、子供のことを思って作られていて優しさを感じました。私たちが寄付で一人でも多くの遺児が心の傷を癒やして、将来に希望を抱いて行ってほしいです。

僕はレインボーハウスのような施設に行くのは初めてでしたが、施設の中を案内して頂き、想像以上に充実した施設で、僕らも楽しめるほどでした。最後に施設の方からぜひ大学生になったらボランティアとして来てくれと言われていましたが、ぜひそのようなボランティア活動に参加してみたいも思いました。

また、自分たちが企画したお祭りの利益を寄付することでこのような活動に少しでも協力出来てよかったと思いました。

3. 創造応用 I L 講義「研究とは何か」

本校同窓会館ゆ〜かり館において、創造科学科2期生（2年）文系選択者を対象に、大阪大学大学院国際公共政策研究科の松繁寿和教授と同大学人間科学研究科院生の内田桃子さんと国際公共政策研究科院生の孫雲之鵬さんをお招きし、松繁教授には「研究とは何か」をテーマに、大学院生の方にはご自身の研究について講義を行っていただいた。



講義後の質疑応答では、多くの質問があった。生徒たちは、研究の進め方や論文の書き方、問いを深めることについて知ることができ、学問や哲学の本質について深く考えるきっかけとなった。授業後も個人的に質問を行う生徒が続々と現れ、実りある学びの機会となった。

4. 創造応用 I L 講義

「国際報道でどんな世界が見える？」

本校同窓会館ゆ〜かり館において、創造科学科2期生（2年）文系選択者を対象に、大阪大学大学院国際公共政策研究科（OSIPP）准教授の Virgil Hawkins 氏をお招きし、「国際報道でどんな世界が見える？」をテーマに講義をしていただいた。

講義の中で「国際報道はなぜ必要？」という議題について生徒間でディスカッションを行い、メディアのあり方や必要性について深く考えるきっかけとなった。また、今後、研究活動を行っていく上で物事を素直に受け止めるだけではなく、批判的な目を向けることの大切さも学んだ。



〈生徒の感想〉

国際報道が必要な理由を Virgil Hawkins 准教授から聞いて、特に「外交には国民の声が必要」ということが大切だと思った。その意見を発するためにはそれ相応の知識がいり、そのためにはやはり Global News View などの国際報道が必要なのだと思った。紛争の死者が一番多いのはシリアやスーダンだと思っていたけれど、全く違って、やはり、ニュースを発信する側が一番伝えなければならないことよりも影響力や珍しさを優先していることによって受け取る側もこれが一番知るべきことだと勘違いしてしまうことも少なくはないと思う。また、報道量のことについても発信する側の意識を変えることも必要だとは思いますが、私たち受け取る側も国際報道の必要性について考え、世界の出来事を知り、自分の意見を持つべきだと思った。

最初題名を見たときは、メディア・リテラシーの話だと思いました。ですが、今まで学んできたこととは一味違うとでもおもしろい講義でした。まず、GNV の存在を初めて知りましたが、グラフの見やすさと共に膨大な量の情報がまとめられていて、これからの研究活動において有効活用できそうだと思います。最後のグループディスカッションでは、まず必要かどうかという観点からのスタートで、今まで漠然としらなければならぬと思っていましたが、改めて考えてみるとアフリカがどういう状態でも自分に何かが起こるわけではないし、という風にも思いましたが、日本国内で起こった事件であっても自分に無関係なことは多くあります。結局はさいごにおっしゃられていたような「関心があるかないか」なんだと思います。しかし、日本の報道局は全体の8~10%ほどしか国際問題を取り上げていないというのは少なすぎると思います。「知ることがなければ

関心の持ちようがない。」とはまさにその通りで、何も知らないのに興味を持つということのほうが難しいことなのです。私は今日、コンゴ民主共和国が一番大きい規模の紛争だということを知り、コンゴ民主共和国に興味を持ちました。マスコミというのは怖いもので、一部分だけを取り上げてそのみが正しいと伝えることができるため、私たちがしっかりと正しい情報なのか否かを見極めること、また、多くの情報を集め知り、関心を深めることが大切だと思います。

5. 創造応用 IS「数学①」

本校化学教室において、創造科学科2期生(2年)理系選択者28名を対象に、数学の内容で「期待値」について学習した。「さいころの目の和の期待値をあげるにはどのようなさいころを作ればよいか」というテーマで、3~4人のグループに分かれて探究活動を行った。

「1つのさいころを投げる試行を繰り返す。ただし前の目の値以下の目が出たら試行を終了する」というルールを設定し、「①何面体でもよい②どんな形でもよい③10以下の数字で好きなものを面に記入してもよい」と幅広い条件のなかで試行錯誤してさいころを作成した。授業の後半では、作成したサイコロを用いて班ごとで競い合い、勝敗と期待値との関係性についても考えを深めた。



〈生徒感想〉

・サイコロは、立方体で1~6の数であるという考え方を一切持ち込まずに考えると面白かった。
・期待値の大きな班が勝ったのではなかったけれど、期待値の小さい班は勝率が悪かった。ゲームを何回もしたら、期待値の大きな順から勝率がよくなるのか試したと思った。

6. 創造応用 IS 生物①

本校化学教室および講堂において、創造科学科2期生（2年）理系選択者を対象に、生物1回目の探究活動を行った。今回の創造応用の実験では、酵母のはたらきについて（教科書 生物：発酵のしくみ）の理解を深めた。発酵によって発生する二酸化炭素を多く回収する課題であり、呼吸と発酵の違いを確認した後で実験に取りかかった。発酵の基質にはグルコースとマルトースを用意しており、どちらの糖がよく発酵するのか、また、最適温度は何度か等をよく考えて2、3回ほど実験を行った。最後に一番良い結果を残した班の実験手法の追試を全員で行い、全員が同じ結果を得ることができるかを確かめた。似たような結果を得ることはできたが、完全に一致した班はなかった。なぜそのようになったのかを考えてきてもらう宿題を出し、1回目の発酵の実験を終えた。次回はもう少し難しい課題を出しますので楽しみに。



<生徒感想>

あきらめが早かったことを反省した。他の班も最初の4分くらいは CO_2 が発生しなかったところもあるようだったが、私たちは3分くらいで、 CO_2 が出なくなってあきらめてやり直すということを何度もやってしまった。せめて5分だけでも待つべきだった。結果を求めて焦りすぎてしまった。

基礎知識が足りないと思いました。実験以前の問題で、実験内容が理解できていないと考える幅がすごく狭くなってしまいます。あと失敗の原因が、あきらめるのが早すぎた、という説があるので効率的であるのと同時に辛抱強くいる、ということも大事にしたいです。



		グローバルリサーチ/学科 関連行事	学校行事
1	金		全国マーク模試(3)
2	土		↓ 土曜教室
3	日		実用英語検定
4	月	GR II <15:40~ PC教室> RRE <6限 ゆ~かり>	クリーンアップ週間 眼科検診
5	火	基礎 A「働き方改革」<6限 HR> 基礎 B <7限 PC教室>	教育相談
6	水	応用 I L <5・6限 PC教室> I S「都市工学」<5・6限 ゆ~かり>	眼科検診 尿検査
7	木	イギリス研修事前指導「英国の政治・経済について」<17:30~18:20 ゆ~かり>	内科検診 生徒会選挙
8	金		文化祭代休
9	土		
10	日		
11	月	GR III <15:40~ PC教室> RRE ポスター発表 <6限 ゆ~かり>	
12	火	基礎 A「長時間労働の問題」古川弁護士 <6限 ゆ~かり> 基礎 B <7限 PC教室>	耳鼻科検診
13	水	応用 I L <5・6限 PC教室> I S「物理②」<5・6限 物理教室>	
14	木	イギリス研修事前指導「英国の教育について」<17:30~18:20 ゆ~かり> 73回生 GR I 選考発表<朝 学科準備室前> GR I ガイダンス <12:25~>	内科検診
15	金		耳鼻科検診
16	土		土曜教室
17	日	ベトナムと長田をつなぐ交流会 <13:30~16:00 ふたば学舎>	
18	月	GR I「日本企業の海外進出について」(15:40~ ゆ~かり) RRE ポスター発表 <6限 ゆ~かり>	
19	火	基礎 A「誰もが元気に働ける兵庫を」兵庫県ビジョン課 <6限 ゆ~かり> 基礎 B <7限 PC教室> イギリス研修事前指導「シティズンシップ教育について」大阪国際短大 古田雄一氏 <17:00~18:20 ゆ~かり>	教育相談
20	水	RRE 外国人留学生との交流会 <14:05~15:40 ゆ~かり> 応用 I L <5・6限 PC教室> I S「数学②」<5・6限>	尿検査
21	木		
22	金	GR II「ポスター発表」龍谷大学 川元康一氏 <15:40~ 社会科>	歌舞伎座鑑賞会(1)午後
23	土		土曜教室
24	日		
25	月	GR III <15:40~ PC教室> 応用 I L ポスター提出 <17:00までに 兵庫提出内フォルダ>	全校読書会
26	火	基礎 B 中間発表 <6・7限 PC教室> ベトナム研修保護者説明会 <17:30~ ゆ~かり>	教育相談
27	水	応用 I L「ポスター発表、振り返り」大学教授・院生 <5・6限 ゆ~かり> I S「生物②」<5・6限 生物室>	
28	木		スマホセミナー(1)6・7限
29	金		
30	土		
備考	東京みらいフロンティアツアー 希望者募集 6月中旬 参加者決定 7月上旬 実施 8月1日(水)~3日(金)		
7月の 主な活動	22日(日)~28日(土) イギリス研修旅行 22日(日)~27日(金) ベトナム研修旅行		